



かがやき

企画推進会議開催について

こどもみらい館における子育て支援に関する事業を、保育所・幼稚園、私立・公立の垣根を越えた「共同機構」の取組として、円滑かつ効果的に展開するため、学識経験者、保幼関係者で構成する企画・運営委員会を設置しています。事業計画の立案や事業運営に対する協力、支援をしていただく組織です。

平成27年度第1回の企画推進会議を6月29日(月)に開催しました。

こどもみらい館から平成26年度の事業報告と今年度の事業・研修の計画についてお伝えし、企画推進委員の皆様方から、今回もご感想や、今後の方向性など貴重なご意見をいただきました。

共同機構研修について

いつも楽しみにしている。昨年度実施された新たな形の研修会「エピソード検討会」は大変よかった。聞くだけではなく語り合うことがよい経験になったようである。

共同機構研修のDVDを職場研修に活用していきたい。(P3・4参照)

幼稚園では、年齢の枠を広げて園庭開放をするようになってきた。共同機構研修では「養護の働き」等、広い領域の研修があり、幼稚園からの参加も多くなっている。

虐待、非行、障害等、近年相談件数が増えている。関係機関が連携していくことは大事になる。今年度の特別研修で関係機関の連携についての研修をしていただくことは嬉しく思う。

昨今、学生の参加が減少傾向にあったようだが、今年度は増加しているようで良かった。実習とは一味違い、参加して楽しかったなど、学生はこのような場を求めている。また、講師として参加する現場の保育士や幼稚園教諭にとっても改めて自分の保育や、保育で大切にしていることなどを見つめなおせる機会として参加していきたいと思う。保育現場は人材不足傾向にあるが、養成講座で学んだ学生が、実際、現場でどれくらい働いているか、また、長く続けてもらっているのかなど気になった。(P2参照)

学生のための 保育者養成講座 について

子育て支援 について

現状として支援の必要な子どもが増加している。地域の家庭訪問事業では、保健師と共に保育士も同行し、育児不安の母親への対応などを行っている。母子保健、保育、幼児教育は共に子育て支援として手を携えていかなければならない。保健センターからも保育園(所)・幼稚園に向いて両面から子育てを支えていかなければならない。

保育園では、基幹ステーションと地域ステーションという枠組みで分かれての保護者支援が変わった。今年度一年かけてどのような形で基幹ステーションと連携を取っていくか課題としながらやっていく。

子どもを共に育む親支援プログラム「ほっこり子育てひろば」のような内容の支援は日常的に行っているが、報告書を出せるように頑張って各園に伝えていきたい。(p3参照)

気になる子どもが多い中、就学支援シートの研修も行い、地域で勤めているが、なかなか連携が難しい。制度として何かを変えていかなければいけないのではないか。保幼小だけでなく、中学まで一人の子どもの育ちについてしっかり連携していくことが大事になると考える。今回だされた意見を小学校、中学校の関係者にもしっかり伝えていきたい。

保幼小連携 について

皆様のご意見を受けて

皆様がそれぞれの立場で、子どもたちを健やかに育てていくことを目的にご活躍していただいている。こどもみらい館では、保育・教育・医療、いろんな分野が連携していく要の役割を果たしたいと考えている。今後とも、家庭においても地域においても職場においても、京都で子育てをしてよかったと思ってもらえるようなまちづくりをしたいと思っている。これからもよろしくお願ひしたい。

学生のための保育者養成講座



すてきな先生になろう！ 子どもとかわるってどんな感じ？

こどもみらい館は、京都市の子育て支援の中核施設として、保育園（所）・幼稚園・認定こども園の先生を目指す学生さんのための実践的な講座を開講しています。今年度も6月からスタートし、民間保育園、私立幼稚園、市営保育所、市立幼稚園の共同機構の各団体から、それぞれ講師として来ていただき、「手遊び・ふれあいあそび等の実習」と「絵本パネルシアター等の紹介と現職保育者との交流会」を開講しました。そこでは、それぞれの先生の持ち味を生かしながらかご指導いただきました。学生の悩みの声に、先生方の優しく、そして大切なことを伝えたいという真摯な思いを込めた声が応えていました。

「手遊び・ふれあいあそび等の実習」の講座では

手遊びは子どもを集めるための手段ではなく、そこには、大切にしたいことがたくさんあることを丁寧にお話いただきました。

0歳から楽しめる”わらべうた”を通して、人との愛着関係を育てること。ふれあい遊びでも、唄の途中に少し”間”をとることで、子どもは次に起こることを期待する。というように遊びを通して、子どもは「待っていたら楽しいことがある」「必ずその気持ちに伝えてくれる」など大人を信頼する気持ちが生まれる瞬間になります。2人の間に共にその”間”（期待感）を感じる共通の「心」が生まれること。

また、幼児になるとみんなの中の自分を意識するようになり、遊びにルールがあることで更にその遊びを通して友だちとのかかわりを楽しめること。また、様々な遊びを通して、想像力が高まるなど、楽しさの中から子どもの興味・関心・意欲を引き出すこと。そして、保育者と子どもの間に生まれる信頼関係など、**遊びを通して何を育てたいか**というように、しっかりとしたねらいを持って行うことの大切さについてもお話いただきました。

「絵本パネルシアター等の紹介と現職保育者との交流会」では

子どもたちの大好きな絵本や、生活に結びつく内容のもの、また、先生自身が好きな絵本を年齢の小さい子どもたちも楽しめる工夫をしたものなど持参いただき、絵本やパネルシアターを通して子どもたちに伝えたいことについてお話いただきました。

その後の交流会では、学生から、保育士・幼稚園教諭になりたいという思いや、悩み・不安について語ってもらいました。「なりたい気持ちは100パーセントなんだけれど、不安もいっぱいある」と学生の悩みはつきないようです。

不安内容に多いのは、クラスを一人で見られるか？、ピアノが苦手、保護者対応、職場の人間関係などです。クラス全体をみることも大事だけれど、まずは一人ひとりの子どもとの関係を築くこと、保護者に対しても、毎日の送迎のなかで子どもの園での姿など、できるだけ伝えていくことで、「先生はうちの子をちゃんと見てくれている」という安心感につながるということ等お話いただきました。

保育には、マニュアルや正解はないけれど、子どもを大事に思う気持ちを大切に素敵な保育者になってほしいなど、先生方の優しい声と温かい助言が応えます。

この講座では、学生の学びはもちろんのこと、講師として来ていただいた先生方にとっても、改めて自分の保育を振り返る機会になり、他の先生方の考えを聞くことで刺激を受け、新しい気づきや学びを得る機会にもなっているようです。

今年度ご協力いただいた先生方ほんとうにありがとうございました。次年度も各園所から講師のご協力よろしく願いいたします。

Information

インフォメーション

共同機構研修DVD・ビデオ貸出し

こどもみらい館では、講師の方のご了解をいただき、講演内容のDVD・ビデオを、園内研修に限って貸出しています。

この度、平成27年度に実施しました下記の研修会のDVD・ビデオを貸出していますので、ご活用ください。

貸出し方法やこれまでの貸出し用ビデオ一覧については、こどもみらい館ホームページ (<http://www.kodomomirai.or.jp>) をご覧になるか、総務課 (tel.254-5001) までお問い合わせください。

- 鯨岡 峻 中京大学客員教授 「養護の働き」と「教育の働き」は交叉している
(4月24日実施分)
- 大倉得史 京都大学大学院准教授
【エピソード検討会の役割～園(所)内研修の充実に向けて】 (5月20日実施分)

子どもを共に育む親支援プログラム「ほっこり子育てひろば」

子どもを共に育む親支援プログラム「ほっこり子育てひろば」の本格実施から、今年度で6年目を迎えました。各園(所)でも、様々な既存の事業を活用し、実施していただいているところ です。

子育てにおける悩みや不安、疑問、孤独感など、支援者の援助のもと、参加者同士の話し合いの中で、悩みの軽減や自らの気づきにつながっているという報告を多数いただいております。

こどもみらい館では、パイロット事業として冊子のプログラム通りの進行内容で進めており、年間10回開催し、市民の方々にご参加いただいております。

また、こどもみらい館で実施している「子育ての井戸端会議」などの事業を活用して「ほっこり子育てひろば」を実施し、参加された方々同士の話し合いが深まっています。

テーマ対象年齢図

■ テーマ一覧 各子供の発達・発達に応じた「テーマ」を用意しています

	妊産期	0歳児	1-2歳児	3-5歳児	小学校就学年	小学校低・中学年	小学校高学年	中学生
赤ちゃんの生活イメージ	←→	赤ちゃんってこんなに近くなの？						
離乳食		←→	いつから始める？ 離乳食					
子育てでいっしょにあそぼう	←→		←→	遊んで育む親子のさすな 一緒にあそぼう				
自覚のめげえと生活習慣			←→	自己チューは育ちのあかし				
子どものかかゆり方				←→	うちの子だけが悪いの？			
いっしょに				←→	子どもも私たちがえのない存在			
受けとめる					←→	どう受けとめる？ 子どもの気持ち		
認める					←→	子どものあひのたまを認めて！		
つながる	←→				←→	地域のつながりって大切な？		
安心				←→	楽しみ？ 不安？ 小学校生活			
劇につける						←→	毎日の生活リズムを振り返って	

* 詳しくは冊子をご覧ください

各園(所)でも、地域の保護者や在園の保護者を含め、様々な子育て支援の場で、「ほっこり子育てひろば」を実施していただくことで、保護者の悩みの軽減と、保育・教育現場において、子育て支援者としての意識の向上につながることを願っています。

京都市保育士会共催

「養護の働き」と「教育の働き」は交叉している

講師 鯨岡 峻 中京大学客員教授

私は子どもを育てる営みとは、子どもの存在を慈しみ喜び含む「養護の働き」と大人に一歩一歩近づくために誘い促し、手ほどきし、いけないことをしたときには叱ったりする「教育の働き」から成り立っていると捉えています。この二つの働きは両義性を含んでいますが、単に相互に影響を及ぼしあっているだけではなく、あるいは、今は「養護の働き」次は「教育の働き」と二つの働きが単に前後して子どもに振り向けられているわけでもありません。「養護の働き」を振り向けるときには既に教育の働きがそこから滲み出していたり、もっばら「教育の働き」を向けているように見えて、実は「養護の働き」が暗黙裡にそれを下支えしていたり、という意味で、二つの働きは切り分けられず交叉しているというのが私の考えです。

例えば「叱る」ときに、「教育の働き」が一方通行のかたちで、大人から子どもへと上から目線で強引に子どもに突きつけられると、子どもは自分の行為を禁止された、制止された、あるいは叱られたと取るよりも、自分の存在そのものが否定されたと受け取ります。ですから行為の上では大人に従い、大人の意向はそれで果たされたかに見えても、子どもの心の中では、自分の思いが分かってもらえなかったという納得できない不満が渦巻き、力に従わせられた屈辱が怒りとなり、しかもそれを抑えなければならぬという腹立ちが湧き起ります。そこから規範意識は決して育ちません。「教育の働き」というとすぐさま「教え方」や「指導の仕方」など、目に見える次元でものを考えようとする傾向が強くなりますが、教え方というよりも、その「教育の働き」を子どもに示す際の大人の「養護の働き」の示し方、つまり、「大人の心の動かし方」が重要なのです。「あなたのことを大切に思っている」という「養護の働き」を下支えに、禁止や制止は行為に向けられたものであって、自分の存在を否定されたのではないという確信が子どもに得られるかたちで示されることが大切です。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています。 [貸出要項へ](#)
講義の詳細は、[要録ページ](#)をご覧ください。 [要録ページへ](#)

(公社)京都市私立幼稚園協会共催

エピソード検討会の役割 ~園(所)内研修の充実に向けて~

講師 大倉 得史 京都大学大学院准教授

近年、保育の現場でエピソードを取り上げ、それについて検討会を行うといった取組が、徐々に浸透してきています。そうした新たな記録・検討の方法としてのエピソード記述法、およびエピソード検討会についてご紹介したいと思います。

1つのエピソード記述は最終的には「背景」「エピソード」「考察」の3つのコーナーで構成されます。エピソード記述をするための第一段階は、心揺さぶられた場面や、あっと思った場面など、自分の心が動いた場面に気づくということです。そして、感動を読み手に伝えるために必要な情報を盛り込んでいきます。良いエピソード記述というのは、そこに登場する人物の気持ちの動きが生き生きと伝わってくるエピソードです。そのエピソードがどんな舞台、どんな文脈で起こったのか、読み手は知りません。そのことを念頭に、必要な背景情報を盛り込んでいきます。そして、保育者がどんな意図や願いを持ってその子に関わっていたのか、その結果、出来事はどんなふうになっていったのかを書き込むことも非常に重要です。子どもの育ちを支えていくために、自分の関わり方がどうだったのかを振り返り、これからどんなふうに関わっていけば良いかという見通しを立てていくという作業を「考察」のところでしっかりと行ってください。

エピソード検討会をすることで、子どもの体験世界や、家庭生活と園での姿のつながり、生育史と「いま、ここ」の姿の関連性、保育者の対応の意味(子どもにもたらす影響)等、今まで見えなかった領域への想像が膨らみます。その結果として、子どもの見方が柔軟になり、子どもの心の育ち一般に関する洞察や保育観が深まります。

エピソード検討会を行うときには、ただ漫然と行うのではなく、これらを目指していただくと効果が飛躍的に高まると思います。何が正しくて何が間違っているかというふうに結論を閉じるのではなく、むしろ子どもについて、保育者の対応について、「こんなことが起こっているのかもしれないなあ」といったふうに、いろいろな可能性を開いていくことを心掛けて、ぜひ普段の振り返り等の中に取り入れていただければと思います。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています。 [貸出要項へ](#)
講義の詳細は、[要録ページ](#)をご覧ください。 [要録ページへ](#)

子どもを育む喜びを感じ、
親も育ち学べる取組を進めます。
(「子どもを共に育む
京都市民憲章」より)



この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ!



発行日 平成27年8月19日
発行者 京都市子育て支援総合センター-こどもみらい館
〒604-0883
中京区間之町通竹屋町下る楠町601番地の1
Tel (075)254-5001 Fax(075)212-9909